

平成28年度行政事業レビューシート(厚生労働省)

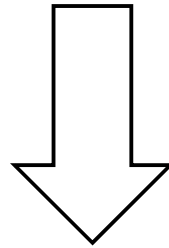
事業名	勤労青少年の国際交流を活用したキャリア形成支援事業			担当部局庁	職業能力開発局			作成責任者		
事業開始年度	平成25年度	事業終了 (予定) 年度	終了予定なし	担当課室	海外協力課 海外協力室			西田 和史		
会計区分	労働保険特別会計雇用勘定									
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	雇用保険法第63条第1項第7号			関係する計画、 通知等	第9次勤労青少年福祉対策基本方針					
主要政策・施策	子ども・若者育成支援			主要経費	社会保障					
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度以 内)	国際化に対応できるグローバル人材の育成は、我が国社会・経済が直面する課題等に鑑みると重要であり、「職業人生を通じたキャリア形成支援」の観点からも、最長で1年間仕事をしながら異国での社会生活を体験できるワーキングホリデー、または海外インターンシップ等を行う渡航者に対し、渡航中に身につける能力を確認させることで渡航中に開発する能力を明確にさせ、帰国後にグローバル人材として活躍できるように、キャリア形成を支援する体制の整備を促進する。									
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	ワーキングホリデー、または海外インターンシップ等を利用して渡航している支援対象者に対し、渡航前に作成した能力開発計画に沿った相談援助を行う。また、帰国後に渡航体験を振り返ること、帰国後研修、キャリア・コンサルティングを受けさせて「能力の見える化」を行い、渡航によりキャリア形成できたことを自覚させる。さらに、支援者の渡航経験の中から好事例や反省事例をまとめ、外部に公表することで、グローバル人材の育成を目的に渡航経験を効果的なものにできる体制が整備されていることを周知する。									
実施方法	委託・請負									
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求			
	予算 の 状 況	当初予算	140	117	77	25	0			
		補正予算	-	-	-	-				
		前年度から繰越し	-	-	-	-				
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-				
		予備費等	-	-	-	-				
	計		140	117	77	25	0			
	執行額		91	105	70					
執行率(%)		65%	90%	91%						
成果目標及び成 果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標		成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 28 年度
	キャリアコンサルティング、帰国後研修等、本事業で提供する支援が、渡航中のキャリア形成、帰国後の就職活動等に役立ったと回答した割合80%以上		キャリアコンサルティング、帰国後研修等、本事業で提供する支援が、渡航中のキャリア形成、帰国後の就職活動等に役立ったと回答した割合	成果実績	%	89.6	82.5	87.4	-	-
				目標値	%	80	80	80	-	80
				達成度	%	112	103.1	109.3	-	-
活動指標及び活 動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	渡航前及び帰国後のキャリア・コンサルティングの実施人数 (28年度については、帰国後のキャリア・コンサルティングの実 施人数)			活動実績	人	313	326	305	-	
				当初見込み	人	300	300	300	300	
活動指標及び活 動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	渡航中の相談件数			活動実績	人	2,656	4,904	5,400	-	
				当初見込み	人	2,000	2,000	2,000	2,000	
活動指標及び活 動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	帰国後研修の受講者数			活動実績	人	151	129	206	-	
				当初見込み	人	300	300	300	305	
単位当たり コスト	算出根拠				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	単位当たりコスト=X/Y X:「渡航前及び帰国後のキャリア・コンサルティング」に必要な経 費 (28年度のみ帰国後のキャリア・コンサルティングに必要な経 費) Y:「全支援対象者」			単位当たり コスト	円/人	91	38	28	30	
				計算式	X/Y	28,366 / 313	12,397 / 326	9,387 / 331	9,060 / 305	

単位当たりコスト		算出根拠				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
		単位当たりコスト=X/Y X:「渡航中の相談に必要な経費」 Y:「延べ相談件数」		単位当たりコスト	円/件	3	3	2.9	1.3			
				計算式	X/Y	8,509 /2,656	15,462 /4,904	15,544 /5,400	6,960 / 5,400			
単位当たりコスト		算出根拠				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
		単位当たりコスト=X/Y X:「帰国後研修に必要な経費」 Y:「研修を受講した支援対象者」		単位当たりコスト	円/人	64	14	15	12			
				計算式	X/Y	9,688 /151	1,759 /129	3,060 /206	3,700 / 305			
平成28・29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目		28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由							
	生涯職業能力開発事業等委託費		25	0	今年度限りで事業を廃止した。							
	計		25	0								
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策評価	政策	多様な職業能力開発の機会を確保すること(V-1)									
		施策	多様な職業能力開発の機会を確保すること(V-1-1)									
		測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度		
			実績値	-	-	-	-	-	-			
				目標値	-	-	-	-	-	-		
					本事業の成果と上位施策・測定指標との関係							
	経済・財政再生アクション・プログラム	改革項目	分野:	-								
			KPI (第一階層)			単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
		KPI (第一階層)	成果実績	-	-	-	-	-	-			
			目標値	-	-	-	-	-	-			
			達成度	%	-	-	-	-	-			
		KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度			
			成果実績	-	-	-	-	-	-			
			目標値	-	-	-	-	-	-			
		達成度	%	-	-	-	-	-				
		本事業の成果と改革項目・KPIとの関係										
事業所管部局による点検・改善												
国費投入の必要性	項 目					評 価	評価に関する説明					
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。					○	グローバル化が加速し、日本企業の海外進出が進む中で、国際的に活躍できる「グローバル人材」が必要とされており、ニーズを反映している。					
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。					○	厚生労働大臣が定めた「第9次勤労青少年福祉対策」において、本事業の内容が位置付けられており、国の事業として実施すべきである。					
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。					○	厚生労働大臣が定めた「第9次勤労青少年福祉対策」において、本事業の内容が位置付けられており、優先度の高い事業である。					

事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		△	委託元が提携しているコンサルタントが、海外の諸事情、特に就労・インターンシップ事情に精通していること、委託元が学識経験者等との提携していることが、本事業の成否に直結する。そのことから、画一的な仕様とすることはなじまないため、企画競争による入札を行っている。		
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		無			
	競争性のない随意契約となったものはないか。		無			
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	-		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	渡航中、帰国後の各段階の経費を精査した。		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	事業実施に必要な経費のみを計上している。		
事業の有効性	利用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-		
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		-	-		
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	支援対象者の87.4%から、渡航中に計画的にキャリア形成を行い、帰国後に渡航経験を通して身についた能力を自覚することができ、就職活動に役立ったとの回答を得た。		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	本事業は、渡航前の動機づけ、計画作成から渡航中の相談援助、帰国後の能力評価と、一貫した支援を行うことにより、渡航者のキャリア形成及び就職支援に実効性の高い手段となっている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	活動実績は見込みにあっている。		
関連事業	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	本事業により収集された好事例等をインターネットを通じてハローワーク、ジョブカフェ等へ配布し、普及を図っている。		
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-			
	所管府省・部局名	事業番号	事業名			
	点検・改善結果	点検結果	・活動実績(アウトプット)については、キャリアコンサルティングの実施人数300人の目標に対して305人の実績、成果実績(アウトカム)については、支援内容に対する満足度80%の目標に対して87.4%の実績を、それぞれ残した。一方、帰国後研修受講者数については、300人の目標に対して206人が研修を受講し、目標を下回った。今後は、目標の達成、事業の効率化に努めることにより、引き続き適正な事業の運営を図っていく必要がある。			
改善の方向性		今年度は、現在渡航中の支援対象者305人について、キャリアコンサルティングの目標と定め、支援内容に対する満足度の目標を80%、帰国後研修受講者数の目標を305人とする。特に、今回目標を達成できなかった帰国後研修を重点的に実施し、また、支援対象者の就職率を把握することで、就職率の向上を促す。				
外部有識者の所見						
点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
通現 り状	帰国後研修受講者の増加等に努め、引き続き適正な事業運営により必要な予算額を確保し、適正な執行に努めること。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
状 通	-					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	
平成25年度	新25-054	平成26年度	609	平成27年度	614	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

厚生労働省
70 百万円



委託「随意契約（企画競争）」

A 民間団体
70 百万円

ワーキングホリデー、または海外インターンシップ等を利用して渡航している支援対象者に対し、渡航前に作成した能力開発計画に沿った相談援助を行う。また、帰国後に渡航体験を振り返ること、帰国後研修、キャリア・コンサルティングを受けさせて「能力の見える化」を行い、渡航によりキャリア形成できたことを自覚させる。さらに、支援者の渡航経験の中から好事例や反省事例をまとめ、外部に公表することで、グローバル人材の育成を目的に渡航経験を効果的なものにする体制が整備されていることを周知する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）
（単位：百万円）

費目・使途
（「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載）

海外留学協議会			B.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
事業費	説明会の会議費、報告書の作成等	40.6			
管理費	事務所借料、物品の購入等	3.9			
人件費	委託事業者の賃金	20.7			
消費税		4.8			
計		70	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(一社)海外留学協議会	3011105003974	渡航者に対する支援事業	70	随意契約 (企画競争)	2	99.9%	-
2								

国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト

	ブロック名	契 約 先	法 人 番 号	業 務 概 要	契約額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (契約額10億円以上)
1		-	-	-	-	-	-	-	-